

第2回情報共有基盤推進委員会 議事概要

1. 日時・場所

2014年2月21日(金) 10:00~12:00

経済産業省本館 17階 第4共用会議室

2. 出席者

委員長

須藤 修 東京大学 大学院 情報学環・学際情報学府学環長・学府長

委員

武田 英明 共通語彙基盤ワーキンググループ 委員長

国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系 教授

橋田 浩一 一般社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA)

知識情報処理技術専門委員会 委員長

林 史典 文字情報基盤ワーキンググループ 委員長

聖徳大学/聖徳大学短期大学部文学部文学科 教授 人文学部長/人文学部日本文化学科長

伏見 諭 一般社団法人情報サービス産業協会 (JISA) 技術強化委員会 標準化部会長

合同会社ソフデラ 代表

(委員 50音順)

事務局

宮里 孝則 経済産業省 情報プロジェクト室 室長補佐

平本 健二 経済産業省 CIO 補佐官

田代 秀一 独立行政法人情報処理推進機構 国際標準推進センター長

3. 議事概要

3.1. 事業背景と説明

3.1.1. ロードマップの進行状況について

- 資料1のロードマップに基づき、共通語彙基盤の進行状況と海外動向、及び文字情報基盤の進行状況について説明。
- 3月の電子行政分科会で、文字情報基盤導入ガイド及び共通語彙基盤の状況について報告の予定。また、電子行政オープンデータ実務者会議に共通語彙基盤プロジェクトの進捗状況について報告の予定。
- 参考資料5、6「公共施設-apps 開発支援キット」は、2月22日に開催される International Open Data Day で紹介する予定である。

3.1.2. 共通語彙基盤 WG 報告・議論

- 資料 2 に基づき、情報連携用語彙データベースに係るプロジェクトの進捗状況を説明。
- プロジェクトは、語彙の整備と共通語彙データベース構築のための概念モデルを構築する「DB プロジェクト」と、共通語彙データベースのパイロットシステムと連携するツールの試作と試用を通してツール等の概念モデルを構築する「ツールプロジェクト」との 2 種から構成される。
- ツールプロジェクト 5 件についての概略を説明。6 月にはデモンストレーションを含む紹介イベントの開催を予定している。
- DB プロジェクトでは、IMI のコア語彙を格納したデータベースのパイロットシステムを 2 月より稼働させた。また、専門家を集め、財務、移動・交通、地理空間・施設、防災のドメインについて語彙の検討を開始した。8 月にツールプロジェクトの運用検証結果も含めて成果をとりまとめる予定である。

3.1.3. 文字情報基盤 WG 報告・議論

- 資料 3、4、5 に基づき、2013 年度文字情報基盤の進捗報告、「文字情報基盤導入ガイド」(案) 及び「文字情報基盤導入テクニカルスタディ」(案) の概要について説明。
- 異体字を識別するための符号 (IVS) の登録が 2014 年 3 月に完了する予定であり、以後、標準化作業中の文字は、ISO で作業中の約 1,900 文字のみとなる。
- 資料 6 の文字情報基盤導入パンフレット(案)について紹介した。「文字情報基盤導入ガイド」(案) をよりわかり易い内容で作成した。

3.2. 質疑・応答

<共通語彙基盤について>

- 共通語彙の普及にあたっては語彙の不統一等で「困っている」実例を明確化することが重要だ。
- 高齢化社会へ向け、福祉の分野でも語彙の共通化が強く求められている。
- 共通語彙基盤では、既存用語の置き換えよりも、既存用語間のリンクに役立つハブとなるものを狙うべきではないか。

<文字情報基盤について>

- 番号制度に伴うシステム構築にとって、文字の扱いは非常に重要。
- 行政の窓口で人名漢字のやりとりに手間取る例はまだ多い。
- 文字情報基盤導入ガイド類について、引き続き委員から意見を求めることとし、それを踏まえて事務局でとりまとめることで合意。

4. 閉会

委員長より閉会の挨拶。次回は 2014 年 5 月頃に開催予定。

以上